

令和6年度

第2回柏市社会教育委員会議

会議資料

令和6年10月4日（金）

柏市社会教育委員 委員名簿

所属等	職務名	氏 名 ※敬称略
柏市立柏第五中学校	校 長	わたなべ あきお 渡邊 昭雄
日本体育大学柏高等学校	教 諭	こにし ともこ 小西 智子
柏市青少年健全育成推進連絡協議会	会 長	あらい まさひこ 荒井 真彦
柏市障害者等社会参加コーディネーター		いしがき ひろこ 石垣 裕子
さわやかちば県民プラザ	所 長	にしはら まさお 西原 正男
柏市社会福祉協議会 地域福祉課	課 長	たかはし ふみなり 高橋 史成
柏市PTA連絡協議会	会 長	すずき みちたか 鈴木 道貴
みんなの子育て広場支援コーディネーター		しもじ きょうこ 下地 今日子
柏市民生委員児童委員協議会	副会長	かず よしこ 賀数 佳子
開智国際大学教育学部	教 授	てらもと たえこ 寺本 妙子
公募委員		きむら ひろき 木村 博貴
公募委員		まつもと すぐる 松本 英

任期：令和5年6月1日から令和7年5月31日まで

※鈴木委員の任期については令和6年7月1日から令和7年5月31日まで

事務局名簿

所 属	職 名	氏 名
生涯学習部	部 長	<small>みやもと</small> 宮本 さなえ
生涯学習課	統括リーダー	<small>たけうち</small> <small>くにひろ</small> 竹内 邦裕
	担当リーダー	<small>ひろせ</small> <small>くみこ</small> 廣瀬 久美子
	主事	<small>おかだ</small> <small>ゆきえ</small> 岡田 幸恵
	主事補	<small>たなか</small> <small>ゆい</small> 田中 優衣
	生涯学習専門 アドバイザー (生涯学習分野)	<small>はえぬき</small> <small>ひろたか</small> 萌拔 博孝
		<small>いわぶち</small> <small>ひろみ</small> 岩渕 弘美
<small>おかの</small> <small>としろう</small> 岡野 敏郎		
中央公民館	館 長	<small>まきの</small> <small>ともこ</small> 牧野 共子

次 第

- 1 開会
- 2 生涯学習部長あいさつ
- 3 議長あいさつ
- 4 議事
説明事項
協議事項（グループワーク）
- 5 事務連絡
- 6 閉会

目 次

- 1 基本方針の策定に関する整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 前回会議のふりかえり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 杉並区施設の視察報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 協議事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
「柏市における中高生世代の居場所づくりの基本的な考え方について」

1 基本方針の策定に関する整理

こども・若者の居場所づくりに関する基本方針の策定に向けて、今後の方向性についてご説明します。

別添資料参照

別添 1 基本方針の策定に関する整理

2 前回会議のふりかえり

協議内容

「TeToTe 5 階に開設する中高生世代の居場所の運営方針に関して」

全体共有した意見

【A班】

毎日通学している子だけでなく、学校・家に居場所がなく生きづらさを抱えている子もいるため、開館時間は放課後だけでなく、幅を広げて12時頃からはどうか。

利用者側のルールは縛りすぎず、多様性を認め合えるよう配慮が必要である。

スタッフの接し方としては、中高生の声を受け止め安心安全な場をつくる雰囲気づくりをすることや、体調への配慮・福祉的な配慮が求められる。スタッフの得意分野等の開示をすることで、中高生から接しやすい雰囲気づくりにつながる。

中高生のニーズに沿った交流・体験・企画ができると、子どもたちが主体性を発揮でき、自分らしくいられる場所になる。

福祉・教育・医療の相談があったときは、つなぎの役割を担うスーパーバイザーのような人も必要だと考えた。

【B班】

大前提として、安心安全であること、ルール作りが重要である。

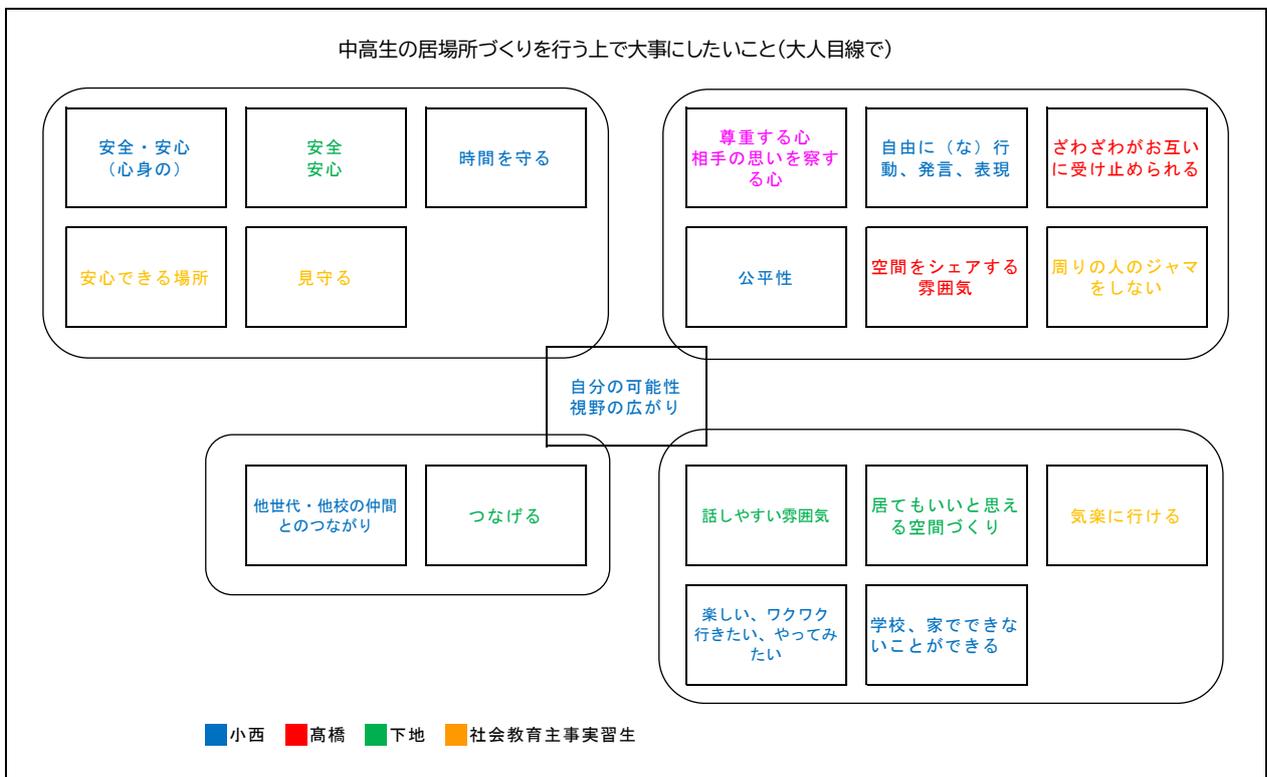
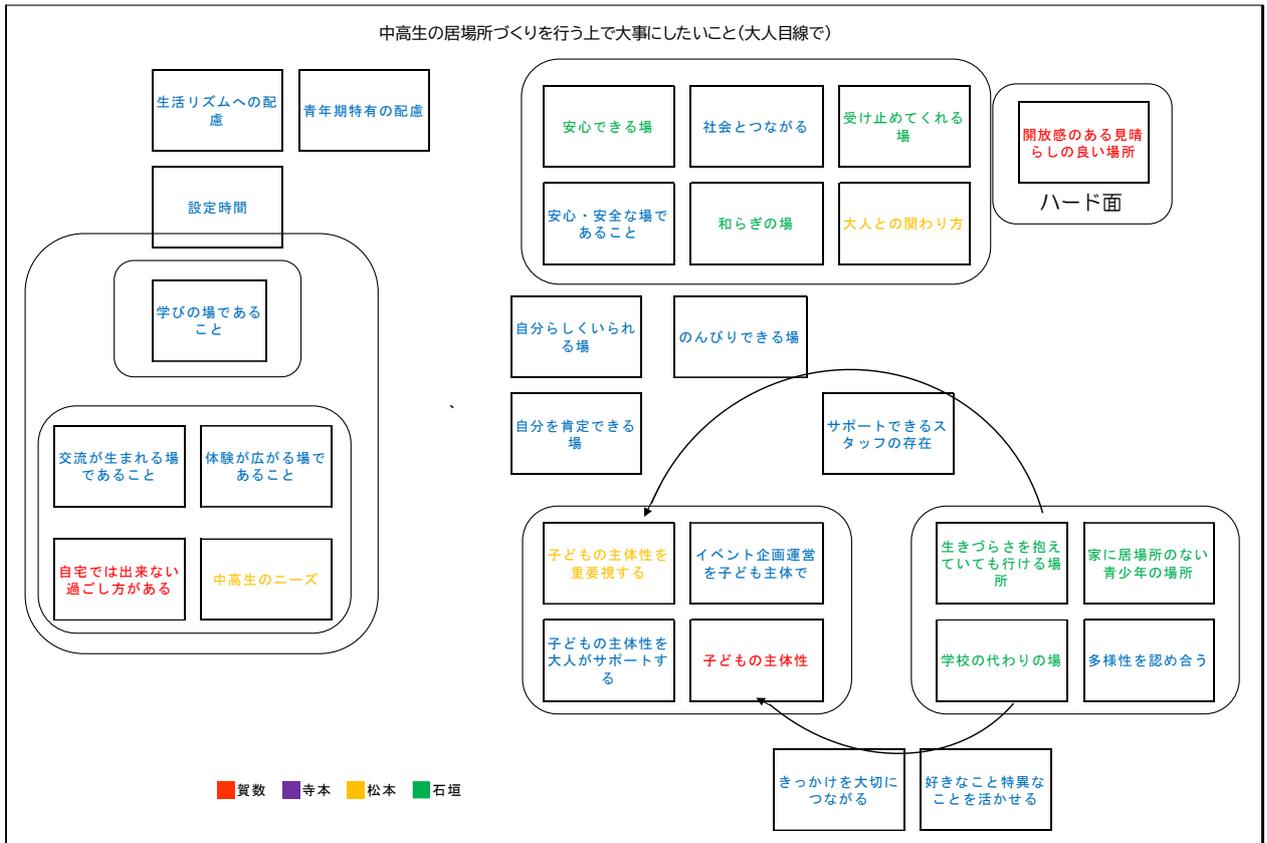
ルール作りにおいては、居場所をみんなで作っていきこうという雰囲気づくりや、行為の禁止ではなく「しましょう」という表現、利用者の意見の反映、ぱっと目を引く表現・デザインでルールをシェアできたらよいと考えた。

スタッフとしての接し方については、みんなに声をかけて、スタッフとしてではなく人としてかかわること、いつ来ても笑顔で接するという心構えが必要である。グループで来る子もいれば一人で来る子もいるため、1人できた子には「ちょっとこんなお手伝いしてよ」というように役割を与え、1人で来ても充実感や達成感をもって過ごせるようにするとよいと考える。また、多世代・他校と交流できるよう利用者間をつなげることができるスタッフや、見守りつつ、必要であれば行政へつなげることができるスタッフが必要である。

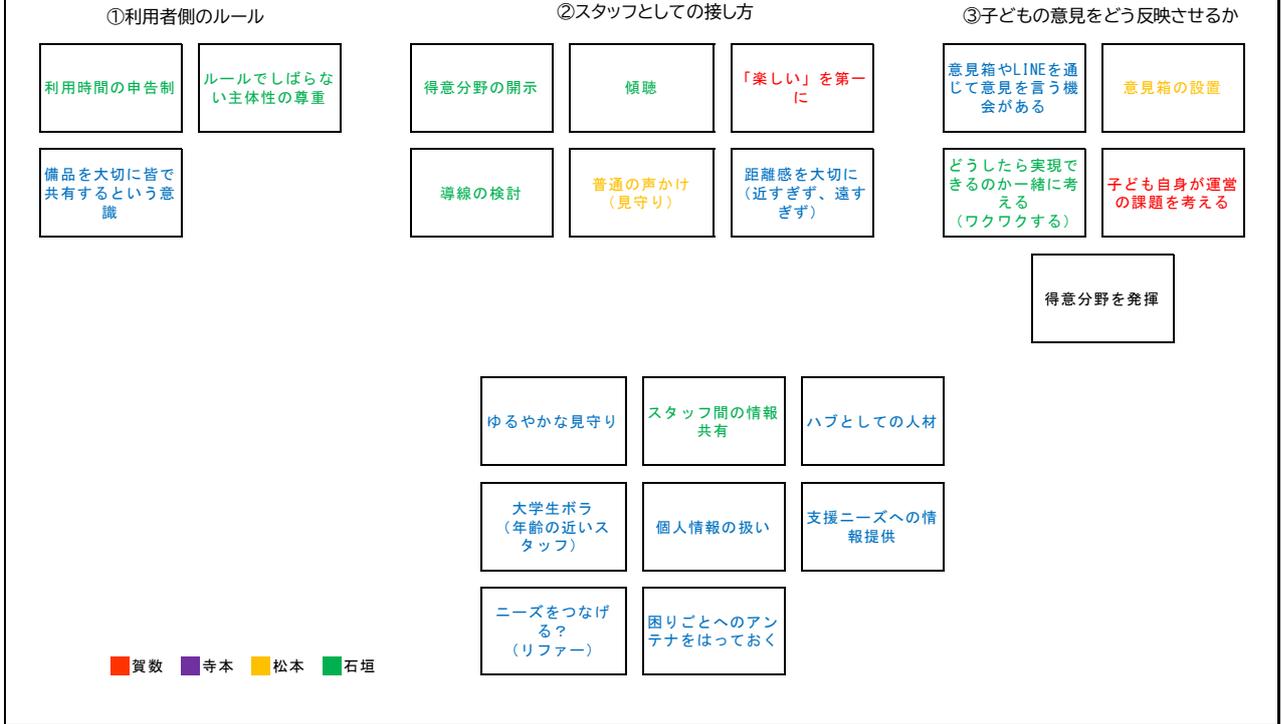
子供の意見をどのように運営に反映するかについては、アンケートや、意見を提案できるフォームを使用すること、掲示物や掲示板で「こんなことやってみたい」「仲間募集」のような掲示をし、そこから自然発生的にサークル活動やイベントが生まれるとよいと考える。

参考 第1回社会教育委員会議グループワークの結果

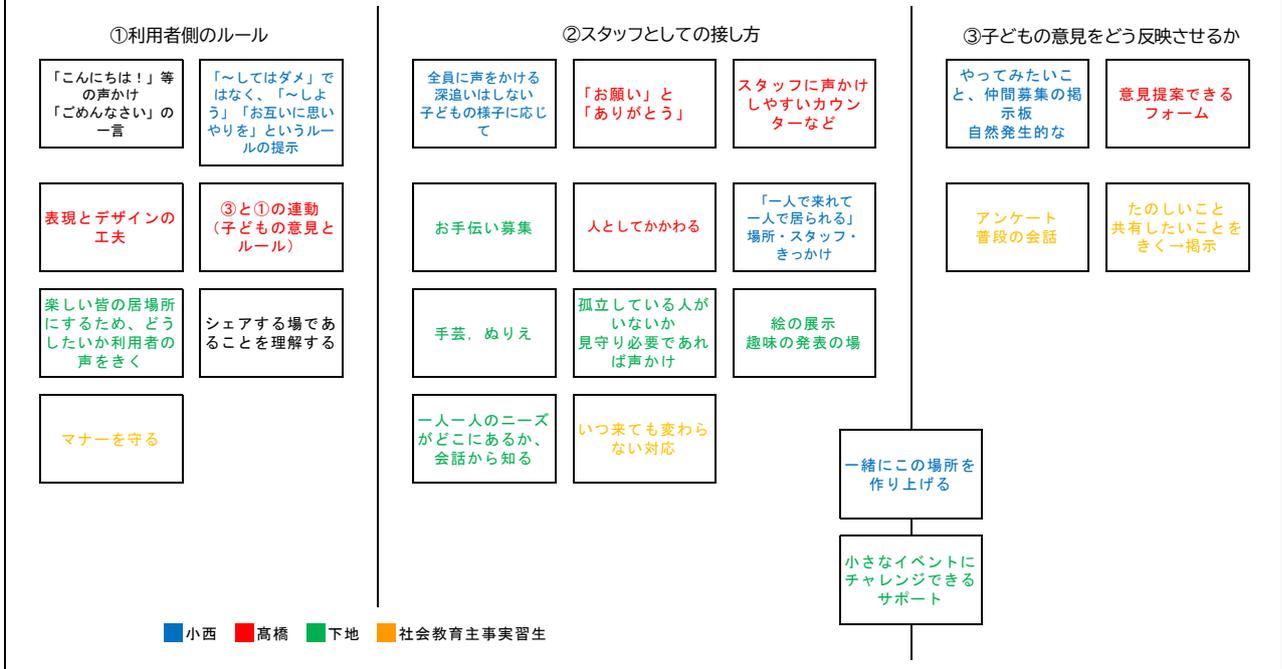
【A班】



大事にしたいことの実現に向けた方策は



大事にしたいことの実現に向けた方策は



3 杉並区施設の視察報告

令和6年7月に、先進市である杉並区児童青少年センター（ゆう杉並）を生
涯学習課職員が視察した内容を報告します。

また、令和5年11月に柏市社会教育委員のみなさまが視察された、同じく
先進市である文京区青少年プラザ（b-lab）も振り返ります。

別添資料参照

別添2 視察報告書

4 協議事項

1 グループワークの実施

今回の議題

柏市における中高生世代の居場所づくりの基本的な考え方について

- ①運営に係る基本的な考え
- ②運営に係る取組

社会教育委員会議において、令和4年度から若者や中高生世代の居場所づく
りについて議論をいただきました。

今後、居場所づくりを進めていくに当たり、これまでの議論を踏まえて、中
高生世代の居場所づくりに求められる基本的な考え方をご検討いただきます。

また、ご検討いただいた内容は答申に盛り込みます。

2 論点の事務局提案

①運営に係る基本的な考え

- ア 子どもにとって安全・安心な居場所であること
- イ 子どもの意見を聴き、運営に反映する居場所であること
- ウ 子どもの主体性を尊重する居場所であること
- エ 市民団体や企業等と連携・協働する居場所であること
- オ 居場所を必要とする全ての子どもに届く情報発信の場であること

②運営に係る取組

- ア 運営マニュアルの整備
- イ 中高生モニターの活用
- ウ ルールメイキングへの子どもの参加
- エ プログラムの充実（過ごしやすい居場所づくり）
- オ 市民団体等との連携
- カ 情報発信の強化
- キ 相談体制の構築と関係機関との連携

3 グループワークの方法

- ・ 2班（A班，B班）に分かれていただきます。
- ・ 50分間協議した後，10分でグループ内のまとめをお願いします。
- ・ 話し合った内容を各班5分程度で発表をお願いいたします。
（班ごとに発表者を決めて下さい。）